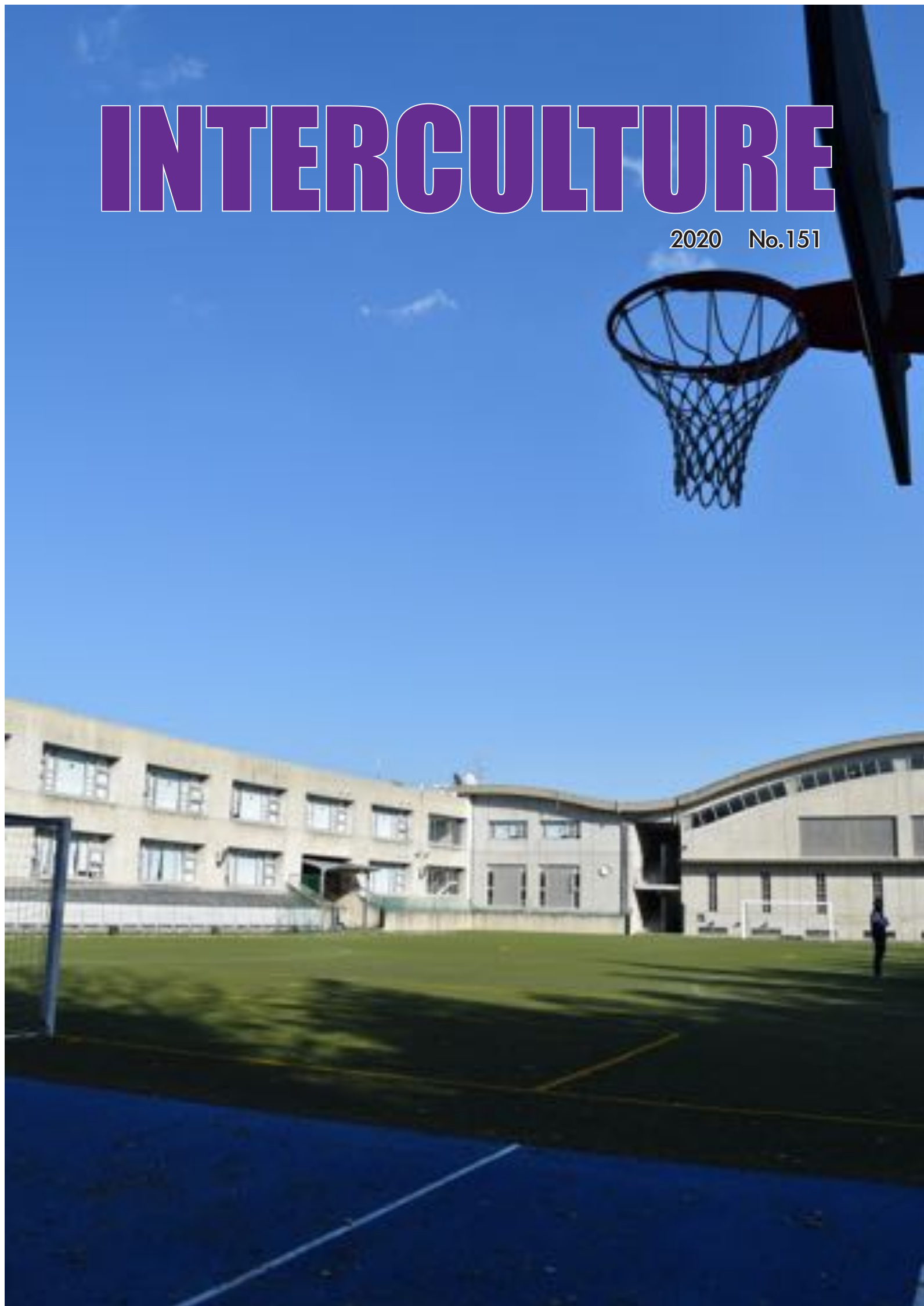


INTERCULTURE

2020 No.151



Contents

特集！井藤先生 ...p.	4
SIS Distance Learning ...p.	6
SOIS Global Citizenship Program ...p.	8
リカタビ。2020 ...p.	12
みんなの挑戦記録！ ...p.	14
SOIS Film Festival ...p.	18
SOIS Tournament ...p.	20
Fall Concert ...p.	22
不思議ウィーク ...p.	23
里山家族 ...p.	24

OIS Head of School Myles Jackson

It is a great pleasure to be asked to write a few words for Interculture. This school year is very unusual, because the coronavirus has changed so much about how we live, work and play. Does this now seem normal to you? I've almost forgotten how things used to be. It has been a year since we first went online and now we are all so used to living with covid that it is becoming difficult to remember how life used to be. Could we really just play soccer or basketball every day with our friends or get together to form a band, sing songs and dance? Did we really share food and drinks so freely, while talking and laughing with each other?

Our memories of 'the before times' seem like a mythical, half-forgotten age, but we will return there one day. Millions of people are being vaccinated around the world and by September, most of the population of Japan will have been vaccinated. In the fall, we may not be able to do all types of activities and we may need to continue some Sabers Safe practices in school, but there may be some differences too and life may begin to feel more normal again. If it takes longer and into the winter again for us to be able to finally be free of this pandemic, then so be it. We can do it! Let's do our best to enjoy the spring season and all the good things in life!



Stronger, Smarter, and even more Caring

SIS 校長 井藤真由美

キャンパスでの様々な取り組みを確認し讃えあえるメディアとして 1997 年に創刊され、形式を変えつつも続けてきた本誌「インターカルチャ」。しばしの中断期間がありましたが、SIS 保護者会 PR 担当の方々と SIS 担当教員との共同取り組みとして昨年度に復活できましたことを大変喜ばしく思っています。今年度は予想もしていなかった「感染症とのたたかい」に見舞われ、発行が年度末の一度だけとはなってしまいました。2020 年度版が発行されることをこの上なく嬉しく思います。



さて、2020 年度もいよいよ締めくくりの時期になりました。この 1 年を振り返ってどのような気持ちでしょうか。もしかしたらネガティブな思いが真っ先に心に浮かぶかもしれません。Covid-19 によってたくさんの方のことを奪われ我慢を強いられた 1 年であったことは紛れもない事実ですから。でも、よく思い出してください。共に力を合わせて乗り越えた日々、オンラインであれオフラインであれ、お互いに「いつもよりちょっとだけ優しく」を合言葉に、制限のある中で試行錯誤し、クリエイティブパワー全開で、今までにない発想の取り組みに挑戦した、あれこれの事を。

この 1 年間の生徒の皆さんの授業や様々な活動での様子、マスクのおかげで一層際立つ「目の輝き」を見てきて、思うのです。私たちは以前より強く (Stronger)、賢明で (Smarter)、一層お互いへの思いやりを持つ (More Caring) 集団になれたはずだと。生徒の皆さんが、そして生徒だけではなく、SIS コミュニティの私たちの一人一人が、個人として大きく成長できた 1 年であったと。・・・と言われても今はとてもそうは思えないという人もいることと思います。心がしんどいなと感じている時はまずは自分でそのことを認めて受け入れてください。そして自分の気持ちをオープンに語る事ができる「だれか」がいてくれることを願います。実感できるのは、今ではなく 10 年後、20 年後、あるいは 30 年後かもしれません。どんな経験にも意味があることを。この 1 年の経験が私たちを Stronger, Smarter, and even more Caring にしてくれたことを。

SOIS は 1991 年に産声を上げてから今年で 30 年を経ました。30 周年の記念行事も、今は我慢でしばしのお預けとなりましたが、2020 年度は、SOIS も学校として Stronger, Smarter, and even more Caring に成長できた 1 年であったと信じています。そしてこれからも一層元気に発展していくはずで。私たちコミュニティの個人個人も、明日からも一層元気にまた一步一步成長の階段を登っていきましょう。

最後になりましたが、9 年生、12 年生の皆さん、中等部、高等部の卒業おめでとうございます。どうか自信をもって希望に満ちあふれた人生の次のステージに飛び立って下さい。

from Grades ...p.26

from our OBs/OGs ...p.28

SISPA より ...p.30

編集後記 ...p.31

特集!

井藤先生

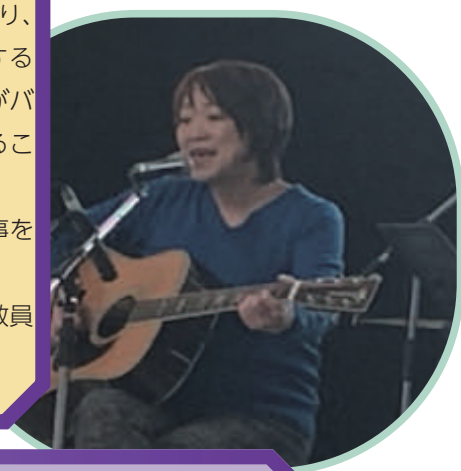
Q & A

Q: SIS に来る前は何かをしていましたか

A: 大学卒業直後から 10 年間大阪の府立高校で英語教員をしていました。自分が高校時代に受けた英語の授業（訳読と文法解説のみ）が大嫌いで、コミュニケーションツールとして使える言語としての英語を教えたいとの思いで教員になりました。担任をしているクラスではガリ版刷りの学級通信（わかります?）を毎週作ったり、毎日のように家庭訪問をしていた、そんな昭和の時代です。その後アメリカに移住することになり、6 年弱暮らす間に大学院で応用言語学を専攻しました。3 人の子供たちがバイリンガルに育つ姿を研究材料に「バイリンガリズム」に関する論文を書き卒業することができました。

【アメリカ生活のことを思い出していると、過去にインタカルチャにこのような記事を投稿したことを思い出しました。原稿のリンクです】

こんな私にとって、帰国してすぐに SIS と出会えたこと、ちょうどたまたま英語科教員募集があったことはラッキーでした。初めて訪問した日に一目惚れして今に至ります。



Q: SIS には何年いたのですか

A: 合計で 21 年間です。2000 年から 9 年間は英語科の教員として。その後 2009 年より 7 年間は教頭、2016 年からの 5 年間校長として。

先日 SIS の ICT 環境についての取材を受ける機会があって思い出しましたが、2009 年、教頭となって 1 年目の年に OIS との合同の取り組みとして soismail を導入しました。生徒・保護者・教職員の全員が gmail のアカウントが今ではすっかり定着し、緊急連絡にも使用できますし、共同作業やアンケートの実施などさまざまな活用が進んでいます。当時 2009 年の導入から「全員につながったので今後は緊急連絡にも使います」の宣言をするのに 3 年かかったことなどを思い出して胸が熱くなっているところです。2011 年には、田中憲三先生と 合志先生との三人で Education Technology Team (ETT) を立ち上げ、2012 年より高校生に iPad を一人一台貸与する事を始めました。iPad というものがこの世に誕生したばかりのことで、最初教室に白い箱に入った iPad を届けた時の当時の高校生の歓声が忘れられません。【iPad を購入する費用は、当時の高校生が SIS で伸ばした英語力を示してくれるという機会があったおかげです。その際の記事をここにリンクします】その後 2017 年の BYOD への移行、2019 年度の中学生クロームブック導入などに繋がります。先日の取材では、単にデバイスというハード面と ICT スキルの充実ということではなく、それらを駆使してメディアの情報を的確に自主的に、そして批判的に読み解く力を育てていることに焦点をあててもらえたことは嬉しいことでしたね。



Q:2016年度から校長として過ごした5年間はどうでしたか

A: どうだったのでしょうか。校長に就任した際に「温故**創**新」をモットーにしていきましたと発言しました。温故知新の「知」を「創」にしています。(私自身、直接には当時は知らないですが) SISの設立の理念に忠実であり、変えてはいけないものは死守したいということ、そして、時代の先を見据えて臆さず新しいものを**創**っていきたいとの思いで取り組んできました。

生徒の皆さんが5つのリスペクトを日々の生活に活かし、このキャンパスで自分だけの色を見つけてくれるように、失敗を恐れずにチャレンジできる土壌を広げること、選択の肢を増やすことを目指してきたつもりです。

5年間の間には良くないことも起こりましたし、特にこの1年はコロナに振り回されました。みなさんには辛い思いをさせたこともあったと思いますが、一緒に乗り越えてくれてありがとう。



Q:最後にSIS生徒のみんなにメッセージを

A: まず、このキャンパスにしかない唯一無二のユニークさを大切にしていって欲しい

と思います。OISとともにTwo Schools Togetherとして活動できること。関西学院という歴史ある学院の一員として大学や他の関西学院の学校と繋がることができること。こんな仕組みの学校は他にありません。そして、校則ではなく「5つのリスペクト」によって、皆さんが自分の頭で考えながら日々の行動を決める学校であること。「5つのリスペクト」で学校が成り立つのは、皆さんが信頼されているからであるということも忘れないでください。

そして、SISは皆さんにたくさんのチャンスを用意していますが、それらのチャンスは自分から取りに行かなければいけない仕組みになっていることも覚えておいてください。桃太郎のおばあさんが川に流れる桃を勇敢にゲットしたように、「これだ」と思ったものには迷わず飛びついてください。迷ったらとにかく行動してみよう。自分から勇敢にゲットしてこそ得られる何かがあるのです。

そして最後に、SISは、失敗することを受け入れる学校です。皆さんが思いっきりチャレンジして失敗して立ち上がる時には差し伸べられる手がたくさん見えるはずですよ。唯一無二のSISで自分の感性を信じて行動し、自分の色、自分だけの色を見つけてください。自分色に染まっていく皆さんとの再会の日を楽しみにしています。



SOIS.iPad



A project lead by
faculty and students
at

SENRI & OSAKA
INTERNATIONAL SCHOOLS
of
KWANSEI GAKUIN

April 2012

21年間お疲れ様でした！！

まなびを 止めるな！

SIS
みんなの
挑戦！

誰ひとり取り残さない「SIS Distance Learning」



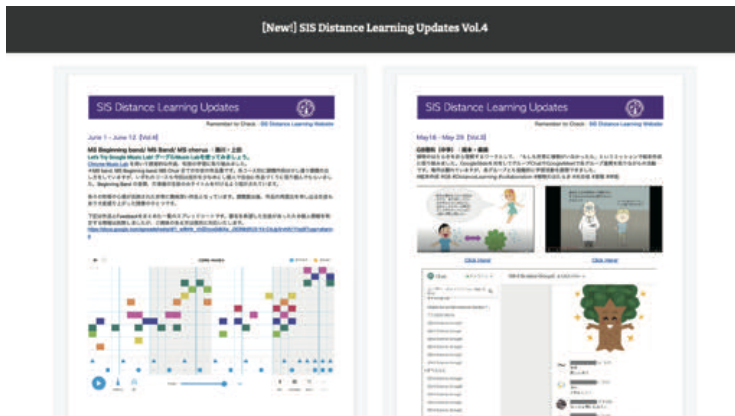
本校では、COVID-19の影響に伴って4月8日から6月30日の期間に、教科の特性を生かしてオンライン以外の学習スタイルも組み合わせた「Distance Learning」を実施しました。教員・生徒・保護者がいつもより“ちょっとだけ優しく”なることを意識して協力し合いながら、これまでに経験したことのない授業スタイルを実現させることができました。

生徒は毎日の出欠確認として朝8時に学校から送られてくるFormに回答し、その後8時30分からの各クラスのHRにオンライン上で参加し、その後は通常

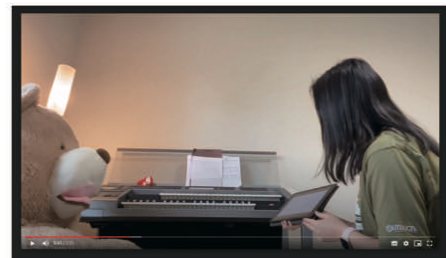
時間割通りの7時間授業を受講しました。この期間中は教員も在宅勤務を基本となりました。

教員たちで授業をふり返ることは勿論、生徒や保護者からもフィードバックをもらい、生徒の健康にも配慮しながら本校にとって最適な方法を探っていきました。その結果、普段と同様にアクティブラーニング型の授業が様々な教科で展開され、協働的な学習を進めることができました。また、通常の授業のみならず、学園祭の代わりとなるFILM FESTIVALを生徒会主催で実施することができました。更には、面談や進路説明会、学校説明会、入試などについても遠隔で対応することができました。

学校のHPにDistance Learning専用のWebサイトを作成し、オンライン上の操作方法やトラブル対応だけでなく、実践の公開、保健室やカウンセリングルーム、進路サポートセンターなどの情報を随時更新していきました。また普段の授業や活動をオンライン上で生徒たちが主体的に活動できるように、教科や部署ごとに考え、学校全体で取り組むことができました。



生活習慣病について学びました。高血糖、高血圧、脂質代謝異常、メタボリックシンドロームから選んで、詳しくあまり熱心に生活改善に取り組みない患者を、自作の資料を使って読得する、というひとり二夜の3分間の動画を撮影しました。



この Distance Learning の実現には本校の ICT 教育環境が大きく影響しています。その歴史を紹介させていただきます。SIS はそもそも学校創設時から、コンピュータ教育に力を入れていました。生徒たちは学校専用のアカウントを持ち、サーバーに自分の課題を保管する仕組みも当初から整備していたのです。それはやはり、世界の動きを意識し、テクノロジーの採用でも先行する OIS と常に情報共有できる環境にあったことが大きかったのだと思います。近年においては、2009 年に教員・生徒・保護者を対象に Gmail を導入しました。2012 年には初めてのタブレット端末として iPad を導入しました。Google ドライブを活用した共同作業もこの年から活発になりました。そうした中、社会ではスマートフォンが浸透し、ICT ツールへの理解も次第に進んでいき、2015 年に高等部は文部科学省からスーパーグローバルハイスクール (SGH) の指定を受けました。これをきっかけに高等部の生徒から、自分の PC を学校で使いたいという要望が急増し、2017 年に高等部での BYOD をスタートしました。このように、ICT という言葉がまだ一般的ではなかった時代からさまざまなツールを取り入れ、教育における ICT 活用を先駆的に進めてきたことが現在へと繋がっています。



Student's Voice

クラスで一気に学習するよりもグループに分かれて学習することで責任感が生まれました。

基本的なことがわかったとしても他の疑問が出てきて、その疑問が解決されたらまた他の疑問が出てくる、というように、より深く学んでいくことができる活動であった。

オンライン上でのグループワークは難しかったけれど、勉強面以外の学びの両方を学ぶことができました。

Student's Voice

やっぱり先生の顔を見て、友達と意見を言い合って授業をするのが 1 番だと思う。友達とも、先生たちとも会いたい。

それぞれストレスがたまって、相手のミスや許し難くなってしまっているように授業中でも感じています。

どうしても実際の授業の時に感じている責任感というのを感じられなかった。

7月にHOLS (Hands On Learning Session) を実施

目的
Distance Learningではできなかったことを学校で行う

授業以外にオンライン上で行ったもの

- 職員会議や各分掌会議などの会議全般
- 面談 (二者面談・三者面談)
- 学校説明会
- 入試 (面接あり)
- 学園祭 (FILM FESTIVAL)
- 学校全体での取り組み (Rainbow Week, Earth Week)
- 生徒会
- 部活動
- etc...

そして、本校の Distance Learning の取り組みが、第 17 回 (2020 年度) e ラーニングアワードにおいて「オンライン授業特別部門賞」を受賞しました。この賞は、SOIS コミュニティ全体に与えられたものであり、非常に誇らしいことです。

学校が再開してからは、コロナ前と比べると個人での取り組みも増えましたが、コラボレーションを通して生徒たちは成長し続けています。日々の授業の中で見られる彼らの試行錯誤が、革新的な学びを生み出すことにつながっていると私は感じています。SIS は学校として、この先何が起こっても、いつ登校できない場面が来ても、生徒の学びを中心に知恵を絞って柔軟に対応していきたいと考えています。



TEC (Technology in Education Committee) 担当：岡本竜平 (教科：理科)

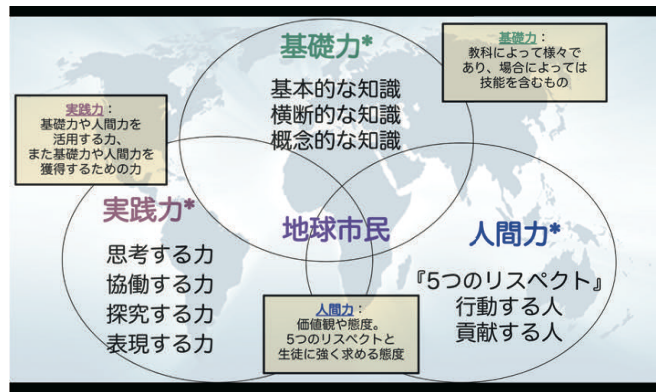
SGC SOIS Global Citizenship Program

関西学院千里国際中等部・高等部では学校理念「知識と思いやりを持ち、創造力を駆使して世界に貢献する個人」を胸に、1991年の開校以来教育活動を行ってきました。2015年度からは5年間にわたって文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受け、本校のSGHテーマ「高い国際通用性を有するレジリエンスに富むグローバルリーダー育成」に取り組むため、既存の取り組みを更に深めるという目標を達成することができました。

2020年度からはSGHで達成したことを受け継ぎ、さらに発展・深化していくためのプログラムとして「SOIS Global Citizenship (SGC) プログラム」を新たに策定し、運用していくこととなりました。下記に掲げる「SIS Learning Compass」にて定めた3つの目標を中核とし、学校理念の更なる実現を図るべく、学校全体が一丸となって取り組んでいます。

SGCの基本理念：SIS Learning Compass

SISでは生徒に獲得してほしい力として「基礎力」「人間力」「実践力」をコアに掲げ、これらの力を身につけていくことを通して「地球市民」たる生徒の育成を図っております。これらの力は毎日の各教科の授業にて育成されていくことはもちろんですが、各学年のSGCプログラムにおける探究科目を通し、これらの力が結びつけられ、更なる発展をしていくことを目指しております。



2020年度の活動①：Field Study（11年生春学期）

今年度はコロナの影響により一部がオンラインに切り替わったものの、文楽やSDGs、農業といったテーマについては感染症対策を取りながら実際にField Studyを実施いたしました。生徒たちは各Field Studyを通して、自分のリサーチクエストをさらに深めていくことができました。

11年3組 古賀凜（訪問先：古賀印刷）

2020年の「フィールドスタディ」で、SDGs2を受講していた古賀凜です。この授業では、まずSDGsとは何かやSDGsに関する取り組みとは一体どのようなことがあるのかについてじっくり学びました。そして、大阪府内のSDGsに関する取り組みをされている古賀印刷へ訪問しました。自分は、古賀印刷へ訪問した際に新しく得た知識がいくつもありました。さらに、民間企業としてSDGsの目標である持続可能な社会を描くために行っている取り組みへの思いや目的については、実際に訪問しなければ理解することが出来なかったと感じています。その後、「フィールドスタディ」は「リサーチデザイン」という名の授業に変わりそこで各々がSDGsの中で興味を持っている分野について研究しました。SDGsには17個の目標があるので、各々の研究し

た分野が全て異なっており授業中の雰囲気楽しかったことを覚えています。教育面に関する問題や同性愛者の結婚問題、原子力発電所による環境破壊の問題など多種多様な研究が行われていました。そこで自分は、これらのように全員が全く異なることを研究しあえるのはSDGs2のクラスだからこその良い面だと感じています。ありがとうございました。



11年1組 久保田彩莉（訪問先：モクモクファーム）

今回のフィールドスタディで私はモクモクファームを訪れました。行く前の事前準備の段階では別のことについて研究したいと思っていました。けれども、9月にファームに行って社長や広報担当の方など、たくさんの人からお話を伺ったり、実際に自分の目でファームの経営を見てからは、モクモクファームを始めとする様々な企業がチャレンジしてきた、日本の新しい産業形態である六次産業についての理解を深めたいと考え、漁業を六次産業化する企業を立ち上げるビジネスプランを研究しました。

自分の企業を立ち上げようと試行錯誤するのは初めてだったので面白かったです。こうすれば面白いサービスが提供できるんじゃないかとか、この問題点にはどうい

う風に対応し改善すればいいかとか、自問自答するのが楽しかったです。また、自分だけでなく周りの友達に意見を求めたり、先生方にアドバイスを伺うなどして、様々な意見を得てそれによって新しいアイデアが生まれることもありました。自分とは違う視点を持った人の意見は、今まで考えたこともなかった新しい発見につながるためすごく興味深かったです。

何よりも、自分自身が興味を持ったことを1人で長い時間をかけて詳しく調べ、結論付けることができたのは私にとってとても貴重な経験になりました。



2020年度の活動②：Research Design/Presentation Day（11年生秋学期）

秋学期は Research Design の授業が行われました。Field Study を通して得た知識や刺激を元に、自分なりの研究テーマを策定し、研究を進めていきます。最終的には1人1人がA0のポスターに研究内容をわかりやすくまとめることができました。



それぞれの研究成果は秋の Presentation Day において、感染症対策を行った上で発表することができました。外部から見学者を呼ぶことはできませんでしたが、とても有意義な発表会となりました。

11年2組 岩谷望生（訪問先：文楽）

僕はこの授業で自分のほしい情報をどうやって手に入れてどのように自分の論文に使うかという事ができるようになりました。

最初のうちはどこの情報が使えてどこを切り取ればいいのかなど全く理解しておらず、右も左もわからないような状態でした。しかし、数をこなすうちに一つ良い論文を見つければその参考文献から芋づる式にどんどん自分がほしい情報を得られることに気づきました。そのコツを知るのと知らないのとではこれから論文を書く時の質と早さに雲泥の差が出るでしょう。

このようにこの授業では将来誰でも書くであろう論文の練習ができて、いつか絶対に必要になる技術を養うこ

とができました。その技術を早いうちにできて大事な技術を得られたのはとても自分のためになったと思います。

そしてFSでは現地の劇場に行き、プロの技術や、舞台裏の精巧さなどとても感心したものもあれば逆に職人不足の現状や、マネジメントの難しさなど現地に行かなければわからないような役者さんや職人さんのリアルの声を聴くことができました。そこから文楽人形浄瑠璃への興味や問いというのが自分の中で生まれたことでただ論文を作り上げるのではなく何か強い意志のようなものを持ってできたので行けてよかったと思っています。

2020年度の活動③：WWL 生徒交流会 SDGs オンラインミーティング

本校は学校法人関西学院の併設校として、文部科学省より WWL コンソーシアム構築支援事業の連携校に指定されています。コロナにより多くのイベントが中止となる中、11月に行われた「WWL 生徒交流会 SDGs オンラインミーティング」に、本校生徒・教員が参加してきました。当日は Zoom によるオンライン形式で開催されましたが、本校からも多くの生徒が参加し、SDGs に関する講演会や生徒ディスカッション、また全国の WWL 連携校による SDGs についての取り組みを聞くことができました。

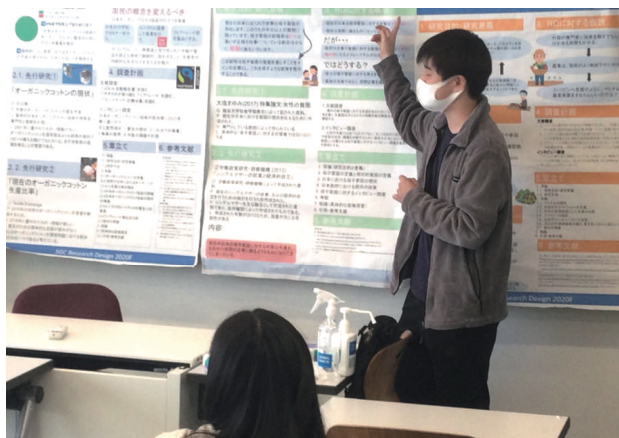


なかでも本イベントの実行委員の1人である10年の鳥枝瀬里亜さんは、2ヶ月にわたる準備を本校代表としてつとめてくれました。また当日は生徒代表としてディスカッションの司会を務めたり、「SISにおけるSDGs」と題して本校の授業におけるSDGsに関する取り組みをわかりやすく発表してくれました。今後も本校はSGCプログラムにて育んだ探究能力を生かすためのさまざまな機会を提供していきます。

担当者より：宗正久志（社会科、SGC 担当）

5年間のSGHプログラムを通して発展させた「生徒の自主性・主体的を重んじた探究的な学び」は本校開校以来の学びの形でした。SGH後のプログラム考案の際、その「原点」を大切にしつつ、次のステップへ進んでいくべきである、と当時のプログラム考案チームは考えました。そして、その考えを具体化させたのが、「SOIS Global Citizenship (SGC) プログラム」であり、「SIS Learning Compass」にて定めた3つの力の育成を中核とし、学校理念の更なる実現を最終目標とするプログラムです。

僕は秋学期に開講している Research Design という授業を担当しています。この授業では、フィールドスタディの経験を基に、生徒自身が主体的に、興味関心のある専門分野についての知識をさらに深め、先行研究の調査をし、リサーチクエッションを設定して、今後の研究計画をデザインします。そして、その成果を校内のプレゼンテーションデーにて同級生や後輩達に向けて発表します。



それらの活動を通して、SIS Learning Compass にある3つの力(基礎力・実践力・人間力)を育てています。以下に簡単に、それらの具体的な力について紹介します。

1. 基礎力：興味・関心のある分野の専門的知識、基本的なリサーチ方法の知識、教科を横断した知識、実社会に適用できる概念的な知識
2. 実践力：思考する力(論理的に考える力・批判的に考える力・多面的に考える力)、協働する力(他人と協力し、課題に取り組む力)、探究する力(問題意識を持ち、自ら知ろうとする力)、表現力(論文を書く力・発表する力・アクティブに聴く力)
3. 人間力：5 リスペクト、行動する人(自ら計画的に行動する力)、貢献する人(クラスや学年に貢献する力)

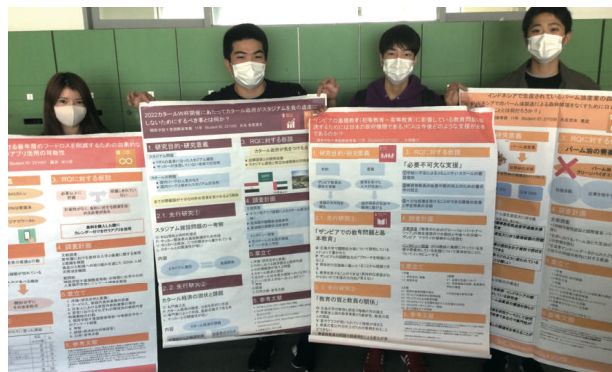
具体的な活動として、授業では、以下のような活動を行います。

1. リサーチの基本的な手法を教員から学び、生徒自らが、興味・関心のある専門分野についてのリサーチ、研究を行い、知識を深める。
2. 生徒自らが、自身の興味・関心に基づいたリサーチクエッション(RQ)を設定する。
3. 生徒自らが、デザインシートを用いて、研究計画(日本語で4,000字程度)を完成させる。
4. 生徒同士でRQや研究計画をお互いに発表し、Feedbackを行う。
5. プレゼンテーションデーで、自らの研究計画についてポスター発表をする。

今年度の授業では、個人がリサーチを行い、知識を深める時間や途中経過をクラス内で発表したり、アドバイスをお互いからもらう時間を設定し、生徒の皆さんの自主性と協働する力を育ててもらえるように計画しました。

生徒の皆さんは、新しい課題や疑問点を探究しようと自ら行動したり、自分だけでは気付かない課題や発見に仲間同士で気付き合ったり、また、このようなアカデミックな活動に取り組む際にも、お互いを励まし合う経験をする事ができたのではないのでしょうか。僕個人としては、最終的に生徒の皆さんだけで「学びのコミュニティー」をある程度創造することができていたことに一番感動しました！教員がいなくても、勝手(?)に学んでいたわけです。素晴らしいです！この雰囲気こそ、まさに「地球市民」を育む礎だと思います。担当教員とし

て、この雰囲気を大切にしていきたいです。そして、生徒の皆さんは、この授業での経験を今後のSISでの様々な学び、そして、その後の人生の学びに役立ててくれたら幸いです！



豊中市立新田小学校の5年生と交流！

「SDGs」を履修したメンバーがフィールドスタディで深めた専門的知識をさらに磨くべく、まさに「アクションを起こそう」ということで、12月21日と22日に大阪府豊中市立新田小学校を訪問し、小学校の先生方のご協力のもと5年生と交流を深めることができました。

そして交流の全容は次の通りです。

架空の国「ハイポルニア国」からの移民が乗った船が転覆したというニュース番組を小学生にみてもらい、この国が抱える問題を意識してもらいました。その後、高校生が小学生に扮してこの問題を自分たちの問題として考える！という寸劇を演じて・・・次に高校生と小学生が各防衛隊員になってハイポルニア国を良くするために作戦会議をしました。高校生たちは学校の授業でケーススタディを勉強してきた経験なども活かし、架空の国「ハイポルニア国」の設定も細かく考え、また小学生たちにわかりやすい言葉で説明するために何度もセリフなどを熟考しました。

小学校の先生方にはオンラインでの打ち合わせや1か月前の訪問などでも大変お世話になりました。どのような交流プログラムにしたいのか、小学生にどう伝えるのがいいのか、この5か月間8名の生徒たちはたえず模索していました。試行錯誤の連続でしたが最終的にとても素晴らしい経験になりました。8名の生徒たちのリフレクションをお読みください。みんなお疲れさまでした！保護者の皆さん、ここまでのたくさんのサポートをありがとうございました。



今後はこの活動を後輩たちも巻き込んでより発展させていきたいと考えておりますので今後ともご支援をよろしくお願いたします。コロナ禍でしたが、たくさんのつながりを感じることができた素晴らしいプログラムになりました。

私も生徒たちと一緒に考えたり、悩んだり時間を過ごすことができ、光栄でした。素晴らしい体験をさせてくれた高校生たち、ありがとうございました！

社会科 齊藤美美

リカタビ。2020 — SOIS × 宇宙地球環境（名古屋大学） —

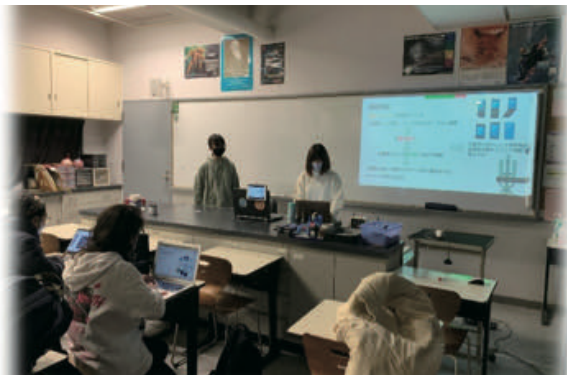
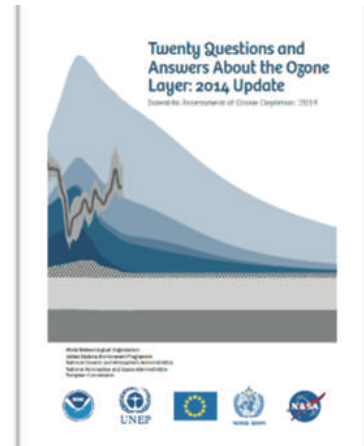
河野光彦・鈴木ゆみ

I. はじめに

2015年から毎年続いている「リカタビ。」を今年度も行いました。ただ、今年度はCOVID-19の影響を受け、学校外での活動をせず名古屋大学宇宙地球環境研究所との活動はすべてオンラインミーティングにて行っています。

これまでその効果が認められていたものと同様に、地球大気環境における国際共同研究の最前線にいる研究者から直接その基礎を学習することによって、グローバルリーダーとしての視点を培うことを重要な目的としました。さらに、継続的な事前学習をすることによって生徒の意欲を引き出し、後続の学習や広がりにより効果をもたらすであろうと考えました。

一昨年度からお世話になっている名古屋大学宇宙地球環境研究所の水野亮教授と長濱智生准教授は、世界各地にミリ波分光観測装置や赤外分光装置を設置され、オゾンや大気微量分子の定常観測を行われるなどグローバルに活躍されています。また、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）や国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）にも関わっておられるので、生徒たちの好奇心を掻き立てるであろうと期待しました。



II. 内容

A. 継続的な学習

9月に募集開始し参加者を決定した後、日程調整を開始しました。そして、毎週火曜日の放課後17:00まで物理実験室(202)で事前学習を行ないました。内容は、「Michaela I. Hegglin (Lead Author), David W. Fahey, Mack McFarland, Stephen A. Montzka, and Eric R. Nash, Twenty Questions and Answers About the Ozone Layer: 2014 Update, Scientific Assessment of Ozone Depletion: 2014, 84 pp., World Meteorological Organization, Geneva, Switzerland, 2015. ISBN: 978-9966-076-02-1」の輪読。生徒二人一組でペアを組みそれぞれが1つずつ Question を担当し、レジュメを作って解説します。1回に事前学習に生徒ペア1組が担当者となり、各事前学習で順番に回っていきます。指導教員はそれに詳しい解説を入れていく方式としました。

B. 短期的な学習

名古屋大学宇宙地球環境研究所との第一回オンライン講習会は2021年1月14日(木)放課後を行い、長濱准教授による講義で「電磁波で地球の大気を測る」というお話しをしてくださりました。そして、2月4日(木)の第二回オンライン講習会までの3週間、水野教授から与えられた地球環境について学習し、そのオンライン講習会にてそれを発表をするという課題を課しました。生徒2名が1人ずつで、6つのテーマを手分けして調査しました。6つ



の事前学習テーマは、「地表での紫外線量とオゾン層との関連」「オゾン層対策と気候変動」「南極オゾンホールのはたきかた」「日常のなかで使われる電波について」「地面の近くのオゾン（対流圏オゾン）について」「メタンガスの大気への影響について」です。

C. 学習発表と講義

2月4日（木）の第二回オンライン講習会では、2つの組がそれぞれ「南極オゾンホールのはたきかた」「日常のなかで使われる電波について」について発表しました。名古屋大学宇宙地球環境研究所から、水野教授と長濱准教授がそれぞれつないでいただきました。

事前学習の成果か、それぞれの組が調べ上げた内容はレベルが高く、プレゼンテーションもしっかりできていました。水野先生と長濱先生からともにお褒めの言葉をいただきました。

D. 事後の活動

今後、2月18日（木）に第三回オンライン講習会、そして2月25日（木）の第四回オンライン講習会を開催し、残りの学習発表を行う予定。また、事後学習ならびに継続学習として、学習発表の後に水野先生と長濱先生から、探究活動のアドバイスと課題をいただく予定です。昨年度は、「Pythonによる観測データの解析」や「赤外線カメラを使った実験の開発」を行い、生徒の意欲や（プログラミングや実験装置開発などの）実力を育められました。今年度も、うまくいけば課題研究に結びつけて、生徒の研究発表や論文として成果を残したいと考えています。



III. おわりに

この活動は、名古屋大学宇宙地球環境研究所「共同研究（一般）」として採択された「持続的地球環境のための高校生のできる課題（Environmental and Sustainable Development Education on Earth Sciences for Highschool Students）」に基づいています。申請・採択・計画・実施を通して同研究所の水野亮教授と打ち合わせなどを行い取り組んできました。3年の継続研究の2年目で、今後さらにもう1年で研究成果の発表やさらなる発展をさせていきたいと思っています。

みんなの挑戦記録！

第8回 2言語・3言語スピーチ大会（2020年度）、オンラインで実施

去る2020年11月14日(土)、午前10時～午後2時30分、第8回 2言語・3言語スピーチ大会が行われました。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止を鑑み、Zoomを使ってオンラインで実施されました。

今回はSOIS側からは中学生2名、高校生5名が、KIS (Korea International School in Ibaraki city) 側からは中学生3名、高校生5名が参加しました。参加者と結果は以下の通りです。

- (中学生) 金本由彬 (かねもと・よしあき 김유빈 中学1年生、KIS) → 最優秀賞
中木一翔 (なかぎ・かずと 8年生、SIS) → 奨励賞
金潤廷 (きむ・ゆんじょん 김윤정 中学2年生、KIS) → 奨励賞
李若菲 (り・るふえい 8年生、SIS) → 奨励賞
徐輔謙 (そ・ぼぎよむ 서보겸 中学3年生、KIS) → 優秀賞
- (高校生) 呉叡眞 (お・いえじん 오예진 高校1年生、KIS) → 優秀賞
金孝珍 (きむ・ひょじん 김효진 10年生、OIS) → 優秀賞
金亜純 (きむ・あすん 김아순 高校2年生、KIS) → 最優秀賞
夏垠 (は・うん 하은 10年生、OIS) → 奨励賞
金潤秀 (きむ・ゆんす 김윤수 高校2年生、KIS) → 奨励賞
外間璃子 (そとま・りこ 12年生、SIS) → 奨励賞
南綵元 (なむ・ちえうおん 남채원 高校2年生、KIS) → 奨励賞
鈴木友梨 (すずき・ゆり 12年生、SIS) → 奨励賞
荒巻萌加 (あらまき・もえか 高校2年生、KIS) → 奨励賞
松岡茜 (まつおか・あかね 12年生、SIS) → 優秀賞

またスピーチのテーマは以下の通りです。

(中学生) 「新型コロナウイルスにより、オンラインでの授業を通じて学んだこと (気付いたこと)」

(高校生) 「新型コロナウイルスに勝ち抜くために人々が真剣に考えなければならないこと」

結果は別として、全ての参加者はとても感慨深い、素晴らしいスピーチをしてくださいました。彼らは全員、事前にとっても熱心に練習していた成果を発揮できたと思います。私たち大会運営者および審査員一同、彼らの今回のスピーチでの奮闘・活躍を大変誇りに思っています。

本スピーチ大会の中学生の部・高校生の部を全て司会進行してくれた水野嘉仁君 (12年生、SIS)、きむ・ちそむさん (高校2年生、KIS)、あなたたちのコリア語・中国語・英語・日本語での流暢な司会のおかげで本大会が大変スムーズに進行しました。心から感謝します。

来年度は新型コロナウイルスをスピーチのテーマにせず、明るい話題のテーマを設定する予定です。新型コロナウイルスが早く終息することを心から願いつつ、来年度のスピーチ大会も楽しみにしています。

2言語・3言語スピーチ大会 SOIS側 実行委員 高橋寿弥 (SIS 数学科)

令和2年度 大阪府児童・生徒防火図画
大阪府知事賞 入選
 SIS 8-1 ^{かつら} 桂 りり

私は、特技である絵画で社会貢献したいという思いから、防災コンクールに応募しました。何気ない日常に起こりうる、危険な行動の一つ一つを描く事によって、多くの方が防災意識を高めてくれたらと願っています。



大東文化大学 第11回 全国高校生翻訳コンテスト
入選
 SIS 10-2 ^{わたなべ} 渡辺 ^{かな} 加奈

コロナ禍で良くも悪くも「どう使えばいいかわからない時間」ができました。そこでいつもの通りスマホと睨めっこして寝るのもいいけれど、たまには「暇だからこそ」コンクールに応募するなど、少しお堅いことをしてみたら、自分が予想していなかった結果になって返ってくることもあって悪くないのかな、と感じた一件でした。

京都ノートルダム女子大学 第10回英語スピーチコンテスト
優秀賞
 SIS 10-1 ^{まつしま} 松島 ^{ともか} 偕香

夏休みの間、興味があることはチャレンジしてみたいと思っていました。山本先生から紹介された、英語のできる活動の中の、スピーチコンテストに特に興味を持ち、挑戦してみたのがきっかけです。何について、どういう風に話すかなどのスピーチを作る過程も含めて、このコンテストに参加して、スピーチができたことは自分の挑戦心にとって、とてもいい経験でした。



2020年度教育実習
 北野先生

第 10 回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯

大阪府大会 優勝

SIS 10-1 ^{まつしま}松島 ^{ともか}偕香,
SIS 10-4 ^{おがわ}ムルティ ^{こうき}タニシカ,
OIS 11 ^{おがわ}小川 ^{こうき}幸姫



昨年も先輩方が参加し、大阪大会で優勝、そして全国でも入賞していました。



私たちがディベート経験者だったため、新しいスタイルのディベート大会に挑戦するのもいい経験になるかなと思い参加を決意しました。緊張感も所々ありましたが、オンラインでありながらも、3人で協力しながら楽しむことができ、結果を残せてとても嬉しいです。次は全国大会が3月末に開催されます。SOIS 代表として精一杯力を尽くし、チームとして、ディベートを頑張っていきたいと思います！

第 3 回 フェローズフィルムフェスティバル 学生ドラマ部門

一次審査通過

SEIKA AWARD 2021

入選

SIS 11-1 ^{かたやま}片山 ^{やすは}靖葉



制作部部長の高校 2 年生、片山靖葉です。

このクラブでは、ショートムービーなどを自分たちだけで0から作っています。去年、クラブを作って、作品をフェローズフィルムフェスティバル学生部門に応募し、一次審査通過しました。作品の題名は『結局そんなもん』です。題名から諦めて、入選した時は、本当にびっくりしました。この作品は、1月に東京の渋谷で映画祭を行って優秀作品が選ばれる予定でしたがコロナで3月に延期になってしまいました。せっかく、自分の作った作品が劇場で放映されて、選んでいただいた監督さんや、作品を作っている色々な大学の方々に、お話を聞ける機会なので、東京に行きたいです。こんな事態になってしまってるからこそ、自分の意見や思いを世の中に、もっと発信して、少しの人がちょっと元気になれる作品を作りたいと思います。クラブのみんなも私も何もかも初めての体験で、若干悪戦苦闘しながら、動画制作をしています。あと卒業まで一年なので、部員本当に募集中です。ちょっとでも興味を持っていただいた方は、この顔を見かけたら声をかけてください！

公文公（くもん・とおる）記念奨学生入選！石井 湧大さん（中部部2年）

この奨学金は、財団法人「公文国際奨学財団」が、国際教育の振興に寄与することを目的として、特色ある国際教育の実践を行っている全国の中学校・高等学校に在学している生徒を対象に、毎年秋に募集を行うものです。採用されますと、中学校・高等学校を卒業するまでの間給付され、しかも返還義務がない、という非常に好条件の奨学金制度です。毎年S I S生徒の関心は高く、今年も23名の応募者があり、課題作文による校内選考を行いました。提出された作文は、どれもS I S生徒ならではのユニークな視点から書かれた力作ばかりでした。選考は非常に難航しましたが、本校から推薦した代表生徒のうち、今年度は8年生の石井湧大さんが採用となりました。湧大さんおめでとうございます。今回の採用はこれからチャレンジするS I S生の良き励みとなることでしょう。



惜しくも今回は選にもれた皆さん、そして新たにチャレンジしてみようと思う生徒の皆さんは、来年度の募集が秋学期の初めにありますので、ぜひ挑戦してみてください！末筆ではございますが、この場をお借りして、本校の先進的な教育に深い理解を示してくださっている公文国際奨学財団様に心より御礼申し上げます。

< 2020年度公文公記念奨学金課題作文 >

テーマ：『今回の新型コロナ感染の拡大により、あなたはこれまでとは異なる新たな体験をいろいろされたことと思いますが、これを契機としてあなたの考えたこと・感じたこと等につき具体的に述べなさい。』

以下に作文全文を掲載しています。

僕はこの度の自粛生活の中でインターネットについて3つのことを考えた。一つ目はインターネットの可能性。新内閣が発足し、新たにデジタル庁が新設されたことに驚きと期待を抱いている。ネットが水や電気と同じように生活に欠かせないライフラインとなったことに感動した。そして新しい生活様式になり学校に行けない中で考えたのはネットを利用して自分を高めることだった。僕はマジックに興味があり、好きなマジシャンの動画をYOUTUBEで沢山みて研究し、自分でも動画を一本作ってみた。家にいる時間が長くなると家族だけでなく友達にも見て欲しくなった。海外の友人にもわかるように英文を追加した。そしてこの作業に没頭していくうちに煮詰まっていた自分が元気になっていくのがわかった。ネットを通して国内外の友達に会えて反応をもらえたことが大きな励みになった。興味のある分野を検索し、とことん追求することでネットを通して仲間が増え、そこから新たなチャンスが広がるのではないかと考えた。二つ目はインターネットでの教育。僕が通う私立中学では自粛中はリモート授業に切り替わり課題の提出やテストまでネット上で行うことが出来た。しかし他の公立中ではオンラインでの授業は無く自主学習のみだったことを知った。春からは全ての大学でオンライン授業になっていたので公立小・中では地域によるばらつきがあり、みんなが急な環境変化に戸惑っていた。同じ時期にやることに差があるのは不公平だと思っただとパソコンを持たない家庭が意外に多いことを知った。物やお金は使ったらそれで終わりだけど勉強したことや知識はその人の心の財産になるし、無くなるものだと思う。児童一人に一台端末を無料で配り、5Gのネットワークを学校に張り巡らし、ネットが繋がる環境をすぐに整備することで地域による学びの格差をなくすことができると思う。そしてデジタル授業の時間数をもっと増やし、オンラインの先生は林修先生などの影響力がある人をお願いする、海外の学校とZOOMで繋げて

交換留学をやってみる、日本と海外で同じ曲を一緒に演奏するZOOMコンサートなどの国際交流も良いと思う。小学校低学年には外国人の先生の読み聞かせの動画をみせる、全国共通のアプリを開発し個人の学習の習熟度をデータ化し統計をとる、答え合わせを自分でできる構成にする、こうすることで学校に行けない子も同じように学べると思う。またオンライン授業を増やすことで学校の先生の負担も減ると思う。国と自治体が連携してデジタル教育に税金を使って欲しいと思う。三つ目はインターネットを通して起こる社会問題の解決。人は暇や不安があるとネットでストレスを発散する傾向があると思った。デマ情報や流す、特に有名人に対して心ない投稿をし、ついに死にまで追いやって悲しい事件もあった。言葉は時に人を殺める凶器になると思った。問題はそれを匿名で出来てしまうこと。被害者は誰が投稿をしたのか辿ってもプロバイダー経由では個人情報の開示がされにくいという問題があり、時間がかかる。今こそその法律を見直すべきだと思う。また公人や政治家に対しての投稿は課金制にするのも良いと思う。一投稿100円にして税金にする。お金を払ってでも書き込みしたいことなのか、直接本人に会っても同じことを言うのか、相手を尊重しているかを自分に問うことに効果があると思う。さらに個人のデータが漏れやすいという問題もある。アマゾンで買い物をする購入履歴からおすすめの商品の広告が入る。自分の個人情報が外国の会社に流れていることに疑問を感じるし、少し怖い気がする。個人情報とは誰のものなのかしっかり考えることも必要だと思う。今は誰でもスマホ一つで大量の情報を無料で手に入れることが出来る。コロナが収束した後、インターネットと対面の両方で生活が持続可能になった世界に期待したい。

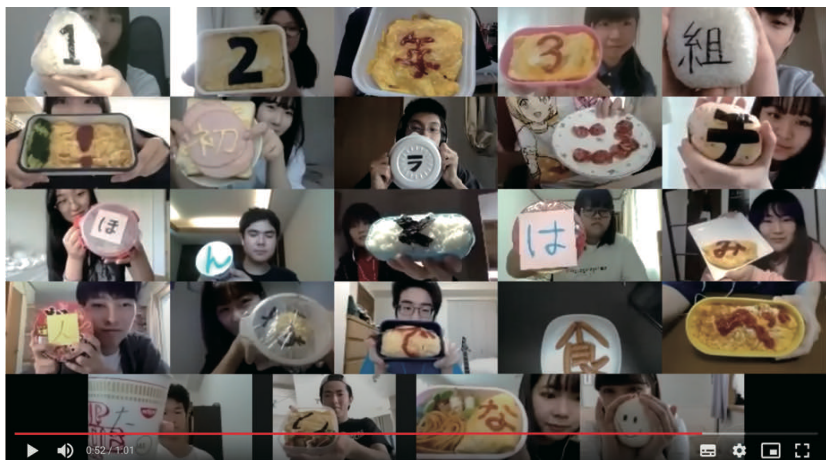
SOIS FILM FESTIVAL

私達は学園祭を例年以上に楽しくするという目標を持ち、兼ねてより計画していました。しかし、コロナウィルスの影響で学校に行けなくなり、学園祭を行うことさえも不可能になりました。そのまま学園祭を無くしてもよかったのですが、生徒会内で話し合った結果、せめてなにかしら行いたいという意見となり SFF を行いました。前例もなく、オンラインという新たな環境にも慣れていない中、中学生も含めて開催することを考え、準備するのは大変でした。当日にちょうど全国で zoom がうまく動かないバグが起きたのは想定外でしたが、入念な対策の結果、割とスムーズにイベントを終えることができました。うまく行くのか、楽しんでもらえるのか不安は大きかったのですが、最終的に皆が作ってくれたクリエイティブな動画を見て、心からこのイベントを企画・運営してよかったと思いました。

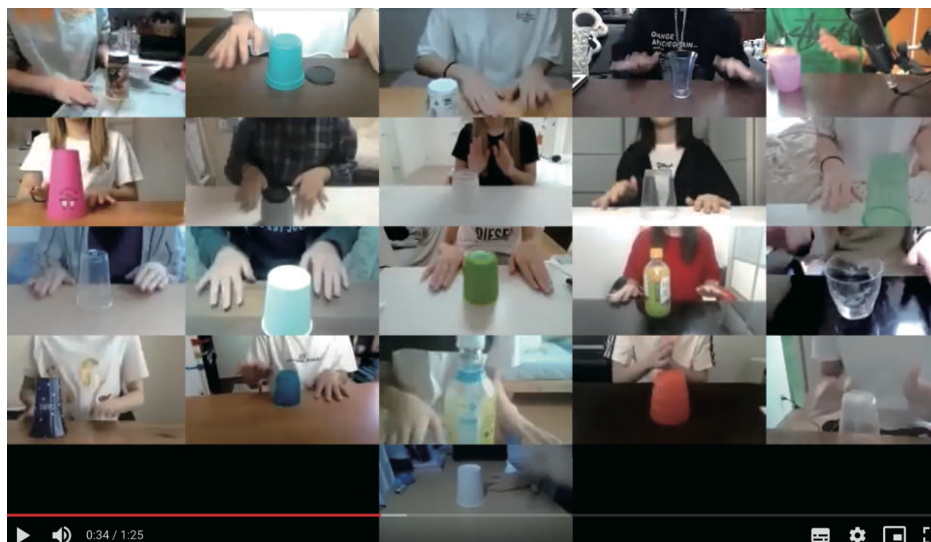
高等部 優勝 12年4組



高等部 準優勝 12年3組



中等部 優勝 9年2組



2019 年度高等部生徒会役員より

会長 富山かりん

2年間生徒会をやらせていただいて大変な事やしんどい事も沢山あったけど、振り返ってみると達成感や楽しかった思い出ばかり思い出して戻りたくなります。企画・運営していく中で行き詰まる時もあると思うけど柔軟な考えで楽しみながら頑張ってます！

副会長 前田進希

一瞬で2年の任期が終わってしまいました。今後はコロナでイベントの準備が今までよりも大変になると思うけど、これからも変わらず SISらしさを追求し続けてください。いつでも全力で参加者を楽しませて、自分達も楽しんで！みんななら大丈夫！



会計 粕本亜美

任期は1年間でしたが、生徒会は時間管理能力や責任感を身につけられる場所だと感じました。今後はコロナでイベント実行の許可申請なども大変かもしれませんが、諦めずに自分たちも生徒会を楽しんで、最高のイベントを作っていくてください！

書記 田村 菜々美

生徒会に入って色々なことを学びました。これからも SIS の高等部を支えていき、生徒により良い学校生活を送ってもらえるような企画作成に勤しんでください！まだ私は生徒会役員として在籍していますが、みんなの期待に添えるように頑張ります！

通訳 矢野莉央

任期が終わり達成感でいっぱいです。他の二人のメンバーと違い1年しか在籍していませんでしたが、コロナなど経験したことのない状況下でのイベント作りは何より楽しかったです。来年からの HSSC にも期待です！



SOIS TOURNAMENT

高等部生徒会

コロナ禍において、例年通りのスポーツデーを開催することができなかつたため、代案として生徒会主催の SOIS Tournament を開催することにしました。コロナ対策を徹底する目的で参加者全員に手袋をつけてもらうことや、密を避けるために各ホームルームで鑑賞できるようライブ中継も行いました。

このイベントは9年から12年のハイスクール生徒を対象とし、2回分のロングホームルームを使う予定で企画しました。残念ながら9,11,12年が参加する予定

だった1日目は雨のため中止になりましたが、2日目の10,11,12年が参加する日予定だった日は開催できました。

SOIS Tournament の内容としては、アルティメットフリスビーをし学年同士で競い合いました。どの学年のどのチームを強い団結力を発揮し、スポーツデーとは違う形ではありましたが、思い出にのこるイベントになったと思います。



中学校生徒会

1月15日(金)と18日(月)のLHRの時間を利用して、感染症対策を徹底したうえで SOIS/MSSC (中学校生徒会) 主催でを行いました。SIS と OIS の生徒たちを4つのHOUSEに分けて交流をしました。ここでも「Two Schools Together」のモットーが生きています！

例年 Sports Day は10月中旬に行われますが、今年のご存じの通りコロナ禍のため日を延期して密にならないように高校生生徒会が必死に日程を調整してくれました。また限られた時間での代替イベントであったためとてもシンプルにドッジボールを実施する、という取り組みになりました。計画書づくりに始まり必要なものを確認して準備をするためにPE科への連絡、HOUSEやTEAMわけ、どうやったら皆が楽しめるのかを長時間協議しました。中学校生徒会としては初めてのOISとのビッグイベントで、中学校生徒会のメンバーたちは沢山の経験をしてくれたことでしょう。



会長：林 楽士

僕たちはコロナがあるこのご時世の中、SIS と OIS が平等にコミュニケーションがとれ仲良くなれるようなイベントを中等部生徒会の中でミーティングを繰り返し計画しました。一番大きかったイベントは SOIS トーナメントです。これまでこれまでは企画書などはすべて高等部生徒会が計画を考え、僕たちはそれにしたがって動いたりするだけだったが、今回は日程とハウスカラーのみだったので、生徒会メンバーで企画書から書き、用具を借りすべてのことをみんな決めました。当日生徒会メンバーみんながしっかりと自分の仕事を責任を持って行いました。これからもコロナ渦の中だからこそ生徒会にできることを実行していきたいです。

副会長：原田 桜子

中等部生徒会は SIS と OIS 両方のミドルスクールの全員が楽しい学校生活をおくれるように、日々頑張っています。私は生徒会に今年の秋学期から副会長として参加させていただいています。生徒会、初仕事は SOIS トーナメントでした。例年なら高等部生徒会がほとんどやってくれていたのですが、今年は日程と概要だけ渡されてあとは自分たちの手でやるという初めての試みでした。しかも、今年はコロナウイルスの感染対策も考えなくてはいけなくて毎週遅くまで会議を重ね、成功することができたと思います。先日、緊急事態宣言の影響もあり、とあるイベントの開催を断念しました。しかしこんな状況だからこそ、イベント以外のことでなにか私たちにできることを考えて実行できるように頑張りたいと思います。

通訳：森田 真緒

私たち中等部生徒会は、コロナ禍で様々な制限がある中、SOIS トーナメントを無事成功させることができました。企画する上で、生徒全員が安全に楽しめるように、ソーシャルディスタンスなどの感染症対策のガイドラインを作成しました。何度も会議を重ねて迎えたトーナメント当日、私は SIS 側の会長とともに司会進行と通訳をし、予定したスケジュール通りに進行できるように気をつけました。マイクのボリュームなどの予想外の問題もありましたが、二人で協力してなんとか対応することができました。生徒会が中心となって、ミドルスクール全体のイベントを運営することは簡単ではありませんでしたが、最後は成功裏に終えることができ、いい思い出になりました。この経験を生かして、今後もたくさんのイベントを企画していきたいです。

会計：廣田 いち花

SOIS トーナメントでは私は OIS のメンバーとスコアの計算を担当しました。私は普段 OIS の子と話す機会があまりなく、今回生徒会をきっかけにその子との仲が深まり、嬉しかったです。私達は、試合ではどのチームが勝ったのかなどを記録し、優勝チームを決めました。そのとき得点を一気に計算していくことは思っていたより難しく、私達は戸惑いました。ですが、二人で役割を決めるなどしてうまく回すことができました。SOIS トーナメントを通して私は仕事への責任感が生まれ、また効率を求めるようになりました。次のイベントも中学生に楽しんでもらえるよう考えていきます。

2020年度

FALL CONCERT

11月5日(木) 16時から FALL CONCERT が本校シアターで開催されました。

9ヶ月ぶりのシアターでのコンサートは、ソーシャルディスタンスと感染予防対策を遵守した上で、一部の「招待制」ゲストのみシアターで直接観覧し、YouTube で生配信されました。

指揮の先生や生徒はマスクを着用、ピアノは演奏者ごとに消毒が行われ、最後の歌のパフォーマンスは、マスクにフェイスシールドというスタイルで行われました。Kelly 先生のあいさつで始まり、ビデオでのパフォーマンス6曲を含め、全13曲、1時間半行われ、生配信は常に100人以上の視聴者数でした。

最後の井藤校長先生のあいさつにあった「NO MUSIC, NO LIFE.」、生徒一人一人の一生懸命なパフォーマンスに、音楽の素晴らしさを改めて感じ、様々な場所での視聴でしたが、豊かな時間を共有できました。



不 忍 讓 我 們 的 聲 音 被 消 失



里山家族



去る2020年12月21日-22日、本キャンパスにて、本校の高校生と7年生を対象とした交流イベントである「里山家族」を開催しました。

「里山家族」とは

本来なら、夏休みに、大阪の南、紀泉わいわい村を舞台に、入学した7年生全員が必修で参加する2泊3日のキャンプです。今年度に関しては、残念ながら、そのような宿泊プログラムの開催はかないませんでしたが、それでも2日間の日帰りのプログラムを通して、7年生同士、そして7年生と高校生リーダーが交流し、家族のような繋がりを育むことができました。7年生にとって「頼れるお兄さん・お姉さん」ができることは彼・彼女らのこれからのSIS生活をさらに充実させてくれる素晴らしい財産となったことでしょう。

「生徒が創るキャンプ」

Field Rangersという高校生リーダーが1か月以上かけてキャンプ活動のすべてを最初から作り、当日の運営も高校生が行うSISならではの生徒主体のキャンプです。担当教員と安全管理を徹底的に行い、思い出に残る素晴らしいキャンプを毎年企画運営します。そんなリーダーの姿を見て、7年生たちは「SIS生としてのあり方」を学びます。

今年の厳しい状況下でも「煌（きらめき）」をテーマに、素晴らしいプログラムを作り、運営した高校生リーダーと前向きに思いっきり楽しんでくれた7年生、そして、様々な面で支えて頂いた多くの方々から心から感謝します。本当にありがとうございました！

里山家族・Field Rangers メインディレクター 宗正 久志

里山を通して学んだこと・成長したこと 12年2組 ポレアッティ 藤原 サーラ

「里山家族」。この活動は私の今までの中学生活、高校生活のどちらを振り返ってみても一番濃く輝いている思い出です。里山家族の存在を初めて知ったのは入学したての7年生の頃で、その当時はただ無邪気に2泊3日のキャンプを楽しみました。当時の高校生レンジャーたちはみんな優しく、とてもたくましかったのを今でもはっきり覚えています。それからというもの私はずっと「フィールドレンジャー」という存在に強い憧れを抱き続けていました。その憧れは一度も途絶えることなく、高校生になってからは毎年、この里山家族にフィールドレンジャーとして参加しました。そして、高校生活最後の今年、キャンプの総合責任者である「村長」として高校生レンジャーのみんなをサポートさせてもらいました。



村長という立場で本当に様々なことを学びましたが、あえて一つ選ぶとしたら「個性を尊重する難しさや大切さ」です。このキャンプでは先生方は私たちのことをずっと影から見守る存在で、企画と運営は一から高校生が行います。もちろん、それは簡単なことではありません。30人の人間がいたら、様々な性格、意見、考え方があって当然です。村長として、それらをどうみんなから引き出すのか、まとめるのか、何度も悩み、苦戦しました。時には意見が全くまとまらず、「私が原因なのでは？」と思うこともありました。しかし、そんな時、私が大切にしたいのは30人の「レンジャーの個性」です。私は全員のレンジャーの個性を最大限に活かしたいと思いました。このような経験を通して、私は「意見のぶつかり合いや相違を止めるのがリーダーなのではなく、それらが起きた時にそれぞれの意見を尊重し、受けとめることのできる人間が真のリーダーなのだ」と気づきました。

そして、里山家族当日、このような素晴らしい企画がたくさん詰まったキャンプができたのは、「レンジャー全員の素晴らしい個性」があったからであり、そしてそれを楽しく実行できたのは「7年生みんなの個性」があったからです。村長としてみんなを見てきて学んだこと、それは「一人一人が全く違う素晴らしい煌き、つまり個性を持っている」ということです。このキャンプに脇役など存在しません。約30人のフィールドレンジャー、そして7年生のみんな、一人一人がそれぞれの煌きを持っていて、それぞれが主役なのです。大事なのは、それらの全く違う煌きを尊重して、どう活かすか、どう調和させるか、なのです。

このような素晴らしいことを学ぶ機会を与えてくださった先生方、そして個性の大切さを改めて教えてくれた2020里山家族とフィールドレンジャーに心から感謝しています。本当にありがとうございました！



7年2組 真田 和津

私は、里山家族に参加して先輩方のたくさんの優しさや努力を感じることができました。まずプログラムの多さに驚きました。1つずつのプログラムは15分～30分だったのに、どれも楽しくて、またそれぞれの移動や持ち物などもペアレンツやその他のレンジャーの人たちが連絡してくれたので、どれもスムーズに行動することができました。

次に、企画についてです。「with コロナ」を意識しながら、ソーシャルディスタンスを保ちながら最高に楽しく参加できる企画を考えてくれたレンジャーのみなさんや先生方には本当に感謝しています。あれだけのことを考えて準備するのは本当に大変な作業だったと思います。ありがとうございました。

また活動を通して多くのことも学びました。例えば、リーダーの話をよく聞き、そして素早く行動することの大切さです。そうすることによってリーダーさんへの負担が減るので予定通りに全員が行動しやすくなったと思います。これは5 Respectにある Respect for Leadership に関係していると思います。それ以外にも私は二日間を通して様々なことを学びました。そのような機会を作ってくれたレンジャーの皆さん、里山家族の皆さん、そして先生方、ありがとうございました。



7年3組 三浦 舞香

千里国際に来てから、学園祭やスポーツデーなど、様々な行事が中止になりました。そんな中、校長先生が、12月にイベントをしようとおっしゃっていて、とても楽しみでした。そして、それが里山家族という行事だと聞いて、とても嬉しかったです。確かに、今年の「里山家族」はキャンプと言っても、イレギュラーな事ばかりでした。例えば、夏ではなく冬の開催、1泊もせずに、日帰りでの開催。正直、「しっかりキャンプがしたい」と思っていました。ですが、私たち7年生のために、何度もミーティングをして、私達がどうすれば楽しんでくれるか真剣に考えてくれた高校生レンジャーの皆さん、そして先生方には本当に感謝しかありません。

当日は、普段関わりのない高校生のペアレンツやレンジャーの方々と友達になって、そして仲良く過ごすことが出来て、とても嬉しかったです。

新型コロナウイルスの影響で、様々な事が無くなっていますが、これからもこのようなイベントがあればいいなと思っています。本当にありがとうございました。



7年4組 五十川 真衣

まず、高校生の皆さん、先生方、ありがとうございました。今年は新型コロナウイルスの関係で、異例の形の里山家族になったけれど、とても楽しかったです。こんな状況の中、感染症対策のことを考えて、できる限りの楽しいアクティビティを準備してくれて、私たち7年生を笑顔にしてくれて、心から感謝しています！

里山家族を通じて改めて思ったことは、「こういう先輩になりたい、将来私もそうになりたい！」と思う先輩がSISにはたくさんいる事です。里山家族に参加している時、先輩は困っている時は助けてくれて、時には少しふざけて私たちを笑わせてくれたりもしました。

今年の里山家族のテーマは「煌(きらめき)」でした。そのテーマに合わせて、将来の煌めいている自分を星の形の折り紙に書く時間がありました。私は「高校生になったらペアレンツになりたい！」と書きました。私も将来、下級生から尊敬されるペアレンツになりたいと思ったからです。それを見た私のペアレンツの先輩は「めっちゃ嬉しい！」と言ってくれました。私はこの時、心から嬉しかったです！

里山家族は、私にとって、とても大切な思い出になりました。本当にありがとうございました！

from Grades

Grade 7

In the last two months the students have been treated to two wonderful events. We want to thank all the teachers and students involved in planning and carrying out both the Satoyama Camp and the Dodgeball Tournament. COVID has restricted the range of activities the students can participate in and so we greatly appreciate the effort and time that went into arranging both of these events. They were superbly organized but at the same time, they both relied pretty heavily on the active and enthusiastic participation of our students to be the great success they were. The Grade 7s demonstrated their understanding of Respect for Leadership by listening to and cooperating with the student leaders as they strove to take advantage of both events to have as much fun as possible. I am not surprised by this as I have received many comments from subject teachers who say the Grade 7 students listen well and are active in discussions and group work. Prior to both of these events, the Grade 7s had organized an Obstacle Race event by themselves. Two students from each class met three or four times to plan the event and on the day, everything was ready and the day went very smoothly. We are looking forward to doing this again on February 22nd with our new class representatives. At SOIS, we encourage the students to be as involved as possible in planning the events that we hold and it is wonderful to see Grade 7 so prepared to step up and take responsibility. COVID continues to present us with a range of daily challenges but on the whole, the students in Grade 7 are doing a very good job of following the guidelines. We'd like to ask for your cooperation in ensuring the Health Check is done each day before the students leave the house. This appears to be difficult for some students to manage. As we approach the end of the school year and the students face the move up to

Grade 8, it is our hope they will have developed the study skills and lifestyle habits that will ensure they continue to enjoy a lot of success.

Grade 8(文責：森岡)

8年生のみなさんはコロナの影響にも負けずにSOISでの学びを深めてくれました。

MSの中心学年として、生徒会には多くの8年生の生徒が立候補し、立派な選挙戦を繰り広げてくれました。選挙はとかく人気投票になりがちですが、8年生のみなさんが見せてくれた生徒会選挙活動では、その投票時、ある生徒が「みんな立派で演説もよくて、選べない…」と言っていたことが印象的で、今の8年生の素晴らしさを物語っている1シーンでした。

また、冬学期には「世の中をちょっとええとこにするProject」と称し、「共生」をテーマとした活動に取り組みました。以下、一部生徒の振り返りを紹介します。

Q. あなたはこのプロジェクトで学んだことを、これからの学校生活でどう活かしていきたいですか？どんな人間になりたいですか？

・自分自身を受け入れること、自分以外の人をより理解し、受け入れることのできる人間になるために活かしたいです。学校生活では、自分のできないことを攻めるのではなく、そのできないことをどのように自分なりに成功させることができるのか、と考え方をフレキシブルにしていきたいと思いました。

・自分だけではなく、他人の視点からも世の中を見ることの大切さを学びました。自分にとって問題ではないことでも、他人からしたら重大な問題なのかもしれない。この考えを念頭に置く人間になり、学校の同級生の意見を尊重し、理解できる学校生活を送りたいです。自分だけではなく、他人の視点からも世の中を見ることの大切さを学びました。自分にとって問題ではないことでも、他人からしたら重大な問題なのかもしれない。この考えを念頭に置く人間になり、学校の同級生の意見を尊重し、理解できる学校生活を送りたいです。2021年度はMSの最終学年として、そしてHSの始まりの学年として、みなさんが大いにSOISに貢献してくれることを期待しています。

Grade 9 (9年担任 彦坂のぼる)

The greater the storm, the brighter the rainbow. (嵐が強ければ強いほど、虹は明るく輝く)

この1年間はどの人にとっても本当に大変な時期でしたが、そんな時に私はよく、自分を勇気づける引用句を検索します。この言葉にもその中で出会いました。個人的には強く共感する言葉ですが、タイミングによっては正直残酷。でも、みんなが眩しいほど明るい虹を輝かせている姿を見るにつけ、苦勞の只中でも今シェアしたいと思わされます。

今年度、みんなは本当に本当に苦勞をしましたね。「いつまで続くの?」と聞かれて、心がとても痛みました。でも、秋が終わる頃になり、ふと変化に気づきました。楽しみにしていた学年旅行が延期になり、次に宿泊が無くなり、そして委員は何度も何度も変更を迫られて、「ここまで我慢したのに、ここまで計画を立てたのに、次こそみんなの心が折れちゃうかもしれない」と思いながら伝える先生たちをよそに、すぐさま再計画に取り掛かる旅行委員、そして感じる事があったとしても、委員や先生たちへのサポートや配慮に変わっていくみんなに、「この嵐が吹き荒れるさなかに、なんて明るい虹を見せてくれるんだろう」と思います。4月には「生徒」と思っていたみんなが、今は「同志」になりました。Your friends will believe in your potential, your enemies will make you live up to it. (Tim Fargo) これからも、みんなの可能性を共に信じ、皮肉にもその可能性実現への一翼を担う「敵」と戦うみんなの同志でありたいと思います。心から、卒業おめでとう!

Grade 10

10年生は、入学して以来 SIS での学生生活がオンラインで続くことになり、結果として春学期を終えました。また入学式もなんとか開催できましたが短縮版となりました。皆さんは、慣れない上に遠隔授業ということに、大変なこともあったかと思いますが、3か月にわたる遠隔授業で、皆さんは少しずつそれぞれの力を磨いてくれました。そしてオフラインになった秋・冬学期でリアルな学校生活になっても、コロナによってもたらされた「不自由」を、ある意味しっかりと受け止めつつ、ある意味楽しみながら、成長していく姿を感じることができました。特にリアルでの授業やできる中での協働学習やHR活動には本当に積極的に取り組む姿が多く見受けられました。まだまだコロナに関しては今後の心配もありますが、10年生は、いよいよいろいろな意味で中心的な役割を担う学年となります。健康で元気で登校し、そして学習活動や課外活動に精一杯取り組んでくれることを願っています。

Grade 11

2月22日現在、まだ大阪府は緊急事態宣言発令中ですが、学年旅行が日帰りのかたちで実施できることが決まりました。3月15日・16日、大阪府内で日帰り旅行をします。3月15日は、「なみはや東和薬品 RACTAB ドーム」のスケートリンクとサブアリーナで、スケートとミニスポーツデイをします。3月16日は、吉本なんばブランド花月で、「お笑いワークショッパと鑑賞」をする予定です。ちょうど1年前から学年旅行について考え始め、春学期の段階で沖縄に決定。しかしコロナ感染拡大状況をうけて沖縄から北陸に先行を変更。しかしながら、緊急事態宣言発出により、県境を超えない日帰りプログラムに方向を修正。ここに至るには、二転三転しましたが、学年旅行委員と学年の皆が前向きにとらえ、コロナ禍の中、確実に実施できるプログラム、また「安全・安心」に徹った活動を考えてくれました。学年旅行までまだ1カ月ありますが、ここまでの地道な努力とリーダーシップに感心しています。何ごともなく無事に学年旅行がえられるよう祈っています。

Grade 12

短いひとりで1年、長いひとはなんと14年間 SOIS のキャンパスで学びました。ひとりの地球市民として世界に羽ばたく準備はできたでしょうか? そうであることを祈ります。

次のステージで出会う人、文化、価値観は SOIS で得たものとは異なるかもしれません。今まで間違いないと思っていた信念が揺らぐこともあるかもしれません。けれども、皆さんはその「違い」と折り合いをつけ、最善の方法で乗り越えていけるしなやかなさを身につけていると確信しています。

学年旅行は突然中止になり、リモート授業による画面見過ぎで眼精疲労と肩こりに悩まされ、一番進路が不安な時にステイホームし、学園祭のフィルムフェスティバルを盛り上げ、スポーツデイの代わりにスポーツ大会に全力で取り組み、Saber Safe の実践者として SOIS での最後の学校生活を全うし、新しい生活スタイルでの卒業式を創り出した皆さんは、間違いなくしなやかでたくましく、Resilience に富み、粘り強くコロナの状況を乗り越えたシニアとして SOIS の歴史の記憶に残る学年となるでしょう。

Bon Voyage. 大きな海に漕ぎ出す若き地球市民の皆さん、信じた道を進んでください。ふと立ち止まって休みたくなった時に SOIS は母港として皆さんを歓迎します。

From our OBs/OGs!!



安岡 加紗音 Yasuoka, Kasane Class of 2017

立命館大学薬学部

11年生の時にSGHのプログラムで1週間オーストラリア国立大学(ANU)に訪問する機会がありました。その時にサイエンスにおける世界の最先端の研究や活動を目の当たりにし、世界ではこんなにかっこいいことをしている人がいるんだ！と大きな衝撃を受けたのを覚えています。その後、自分も世界に貢献する研究が出来る人材になりたいと考え、薬学部に進学しました。

大学入学後は膨大な量の勉強にかなり苦労しましたが、今は大学の研究室でコロナウイルスの受容体に関する研究を行っています。春からは大学院に進学し研究を深めていく予定です。

中学生、高校生の皆さんの可能性は無限大です！興味を持ったことに突き進んでみてください！



北嶋 友香 Kitajima, Yuka Class of 2013

タクトピア株式会社
NPO 法人ミラツク
iLEAP

SISで挑戦させてもらったことはたくさんありますが、ぱっと思い出したのはトランプペットでした。きっかけは、入学前のオープンスクールで、わたしだけ1時間一音も出なくて凄く悔しかったから。入学後は毎日コツコツと練習し、遅咲きながらセクションリーダーまで任せてもらえた喜びを今でも覚えています。頑張っていれば誰かが見てくれること、スロースタートでも大丈夫だという自信、自分で工夫する重要性、誰かに頼る大切さ、は、海外大でも今の仕事でも生きてきたと強く感じています。



小澤 悠 Ozawa, Yu Class of 2009

丸紅株式会社 経営企画部 国内事業推進課
教育団体 ANOTHER TEACHER 代表

個性的な SOIS の同級生に囲まれた学校生活の中で、当時の私はどちらかというと浮いておりました。成績でいい点を取ることや入っていたトライアスロン部で結果を出すことだけを求めています。そんな様子に気づいたある Science の先生にある日カフェテリアに呼び出されてこんな一言を言われます。

『悠はよく頑張ってるけど、このまま新しいことに挑戦しないと A - の学生生活で終わってまうで』

私が負けず嫌いなことを知っていた先生がかけてくれたこの一言は猛烈に悔しく、そこからプレゼンテーションの場に積極的に出ていくようになりました。当時、プレゼンテーションも周りの友人の方が圧倒的に上手だった一方、私はメモが片手がないと話せないほど下手くそでしたが、沢山の失敗を経験させて貰ったお陰で今では人前で話すことが大好きになりました。今現在は総合商社で働きながら、教育プロジェクトの代表をしており、学校や企業の多くの人の前で話すことが沢山ありますが、強い自信を持って楽しく話せるようになりました。様々な文化背景とそれぞれの天才（先天的に誰もが持つ才能）を持つ仲間刺激を受けながら、失敗を沢山経験出来るのが SIS という学校の一番素敵なのだと思います。沢山のワクワクする「失敗」を楽しんでください。



難波 俊充 Namba, Toshimichi Class of 1998(98年卒)

WiL(World Innovation Lab), Partner

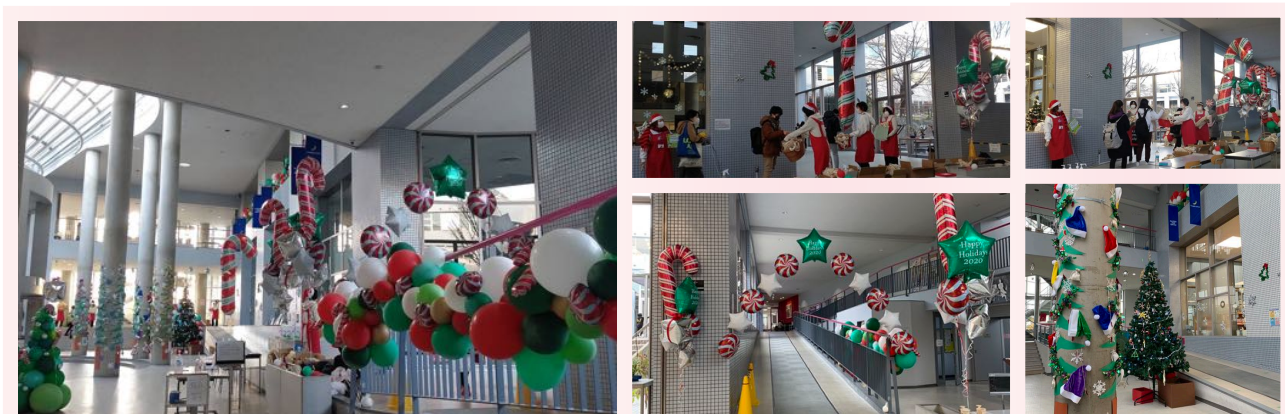
今こそ、皆さんの感性を活かし躍進を！

私は学生時代に得体の知れぬインターネットと出会い、世界が変わりそうな予感がしました。自由と責任、自ら選択する重要性を学んだのも SIS です。

大学卒業後はその予感と学びを頼りにサイバーエージェントに入社。当時 100 人だった組織は 10 年で 6000 人へ成長。7 年前より投資家に転身、いま日米 100 社以上の尖った感性を持った起業家と共に新しい世界の実現に向け邁進しています。

～ SISPA ホームページ記事より～

2020 子供支援プロジェクト ご報告



SISPA 執行部より皆様へ

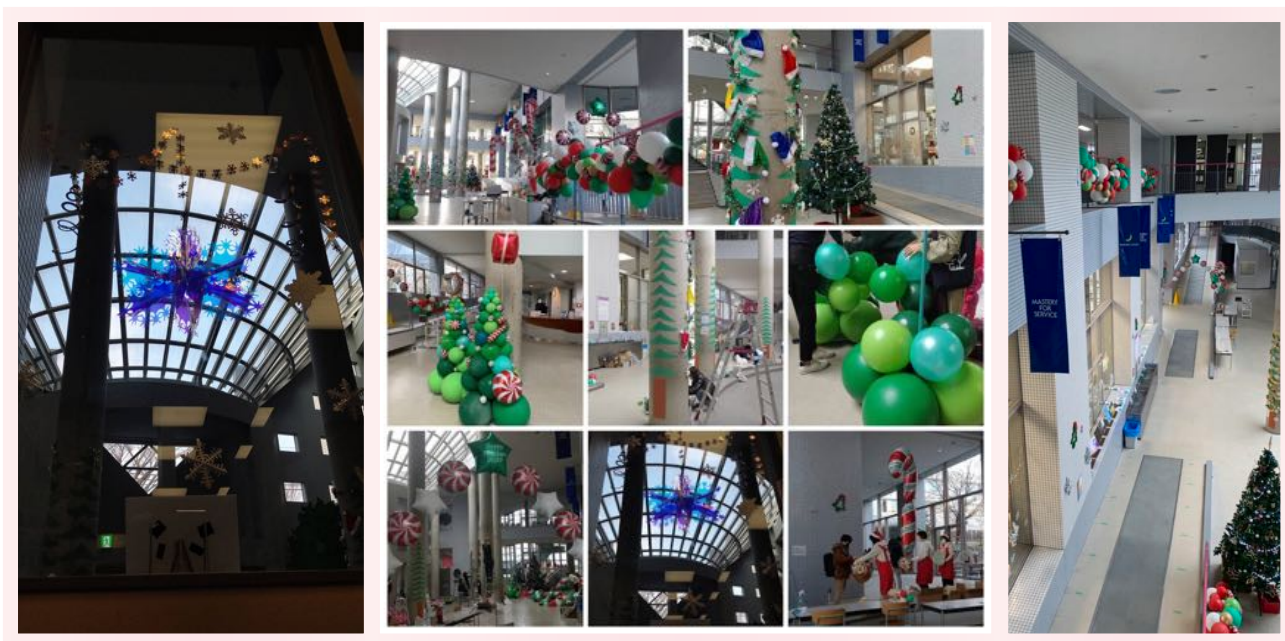
保護者の皆様、新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

「2020 子供支援プロジェクトご報告～感謝を込めて～」

激動の2020年でしたが、このコロナ禍によってもたらされた困難で、子供達も忍耐や感謝を沢山知りまた一つ大きく成長し、きっと希望の道へと力強く歩んで行ってくれることでしょう。この状況下だからこそ、保護者会皆様の暖かいご協力により各委員会の枠を超え、アイデアと工夫で実現することができました。

感謝を込めて「2020 子供支援プロジェクト」のご報告をさせていただきます。

- 「Happy Holidays2020」
SISPA を代表しホスピタリティ委員会が総力を挙げて、
圧巻の演出で学校全体が元気になる魔法をかけて下さいました!! Special Thanks ♪
- 「電子レンジほっかほっかご飯計画」
電子レンジ3台追加購入実現!! ルイスキャンパス副長・事務局 山岡さん Special Thanks ♪
- 「SOIS 生徒会主催・SOIS トーナメントオリジナルマスク」支援
PR 委員会の皆さま 取材ホームページ掲載 Special Thanks ♪



編集後記

今年度、保護者の皆様にインターカルチャ発刊に関するアンケートを実施し、その結果を踏まえ、PDFでお届けする運びとなりました。

私達、PR委員会としまして、今年度も引き続きインターカルチャ発刊のお手伝いが出来たことを大変光栄に思っております！

2020年はコロナ禍でもあり、様々な行事、取材が困難で中止となりましたが、そのような中だからこそ、少しでもSISの事を保護者の方々にお伝えできるよう、PR委員会一同、努めてまいりました。

今後も皆様のお役に立てますよう、行事の取材・HPの運営をしていきますので、どうぞ協力の程、宜しく願いいたします。

またインターカルチャについて、ご要望、ご意見などございましたら、お気軽にPR委員会 (sispa-pr@soismail.jp) まで是非ご連絡下さい。

PR委員長 菅野貴子

怒涛の1年でしたね。オンライン授業に始まり、学園祭もオンラインで行いました。秋学期から登校するようになりましたが、Sabers Safeを守りながら、新しい生活様式に慣れていきました。誰もが今年1年のことを忘れることなく、いつまでも鮮明に語り継ぐことでしょう。

私はステイホーム中は趣味のガンプラに勤しんだりもしていましたが、やっぱり画面越しでしか会えないもどかしさは辛かったです。自分のため、みんなのため、我慢は続きますが、困難な1年であってもこれだけ楽しいことがあったんだよ、とINTERCULTUREを見て思い返してくれると嬉しいです。

2021年度は更なる飛躍の年にしましょう！ピンチをチャンスに変えて、既存の固定概念から脱却するなら今です！SOISならコロナ禍をクリエイティビティで乗り越えられることでしょう！

INTERCULTURE 担当 数学科 小川 達也

記者大募集！

将来、記者になりたい人はもちろん！

デザインに興味があって、Adobe を使いこなしたい人！

友達の話聞くのが好きな人！

数学科の小川 (togawa@soismail.jp) までカモン！！

